

# 二つの思い出 三つのお宝を探そう

## ～ 国宝 久能山東照宮 ～

### 一つの思い出

太古、海底から隆起した断崖絶壁に5～600年ごろ久能寺が建立され、行基、聖一國師の名僧が往来し隆盛を極めた。永禄11年、駿府に進出した武田信玄は、久能寺を下に移し久能城を築いた。この要害の城は武田氏の滅亡とともに徳川家康の支配下に入った。

元和2年、家康の死後、遺命により遺骸は久能山に葬られ、2代将軍秀忠はこの地に久能山東照宮を建てた。

一周忌後、遺命により下野の国、日光に改葬された。

現在の日光の大イベント「百物千人揃武者行列」であるが、この時の大行列を再現したものという。

1. 遺骸は駿河の久能山に葬ること
2. 葬儀は江戸の増上寺で行うこと
3. 位牌は三河の大樹寺に立てること
4. 一周忌後に下野の日光山に小堂を建て勸請(かんじょう)すること

### 二つの思い出

この時、秀忠は、社殿、拝殿などを建立した。3代将軍家光は全国的に「寛永の大造営」を行い、ここでは五重塔などを増築した。江戸時代につくられた地図によると五重塔は久能山東照宮のシンボルとして30mを越す威容に描かれていた。その後、明治の王政復古、廃仏毀釈の激動に巻き込まれ、明治6年、神仏分離令から競売にかけられ取壊された。現在は礎石が、ありし日の栄光を伝えている。

### 一つのお宝

社殿の様式は、本殿、拝殿、二つをつなぐ石ノ間からなる権現造の様式で総漆塗の極彩色の華麗な姿を残しています。日光東照宮よりも19年前に造られ彫刻、模様、組物等に桃山時代の技法も取り入れた江戸初期の代表的な建物で、平成22年12月、国宝に指定された。

### 二つのお宝

久能山東照宮の付属施設として久能山東照宮博物館がある。



久能山東照宮博物館蔵

館内には徳川家康関係資料として家康旧蔵の調度品、茶道具など奉納品がある。指定品の中には家康愛用品の1581年の銘があるスペイン製の置き時計がある。これはスペイン国王フェリペ三世より贈られたもので現存するゼンマイ式機械時計としては最古のものだという。

この南蛮時計は、修理されて昭和30年の「時の記念日」の日、日本とスペインの両国でラジオ放送された。また大航海時代に海を渡った南蛮時計として当時のUP通信社でも、海外に大きく報道し話題を呼んだ。

この南蛮時計の済んだ音色は、平成の世でも2回にわたり公開され反響を呼んでいる。

### 三つのお宝

本殿左横を上昇すると、最奥部に神廟・徳川家康の墓がある。日光の家康の墓、家光の墓、東京の増上寺の秀忠の墓と同じ様式の宝塔である。埋葬当時は、祠が建てられていたが、家康の引立てで三代将軍になった家光は、崇拝していた祖父家康のため、高さ5.5m、周囲8mの立派な宝塔を建てた。

さて、神廟の中には家康の遺骸が残っていると主張している久能山東照宮の関係者がいます。

遺命の「小堂を建て勸請(かんじょう)すること」は「分祀せよ」ということである。

遺骸の掘出しや改葬は、天海大僧正しか立ち会っていない。

遺骸のない墓所を、なぜ三代将軍家光が、後になって立派な宝塔をつくったのか

いずれにしても、謎は深まるばかりである・・・・・・・・・・・・・・・・。